

同窓会会報

第35号

昭和59年12月18日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町豊洲5065
鯉淵学園同窓会
印刷所
佐藤印刷株式会社

記念募金の目標達成を

——一口壹万円を振替で——

本会は、学園創立十周年に図書館、二十周年に教室、三十周年に同窓会館と十年を節目に記念募金事業を実施し学園の施設整備に協力してまいりました。そして、四十周年記念事業として一、学園教育の特色である全寮制の歴史を記録にとどめる寮史の編纂。

二、諸施設の整備五カ年計画が出されるから十五年目にして、ようやく実現することになった本館建設への協力。

三、緑を大切に建学の精神に照らしても意義のある育林事業への参加。

の三つを掲げ、それを達成するために目標額千万、会員一人壹万円の募金事業の実施に踏み切った次第です。

寮史の編纂については、週三日間の夜三時間を資料（自治会）の整理にあてて編集にあたっており、教授会の記録についても関係事項の収集に着手しております。学園の本館については、



昭和六十年年度の国庫補助施設として、総合教育棟の名のもとに鉄筋コンクリート二階建総工費約一億円で計画の進展をみております。育林事業については、常磐線小木津駅から車で十五分、日立市内の困有林を視察選定して、分取造林への申込をいたしました。

これらの記念事業を成功させるために、支部単位やブロック単位に会合をもたれ、母校への協力を相い言葉にして募金へのご協力をお願いいたします。

動き出して間もない現状の募金に対する反響は、今一つの盛がありますが会員各位の御協力によって期待通りの成果があるものと信じています。

農民教育協会会長に岩持全中会長就任

——十一月二十九日の来園——

去る十月二日の理事会において万場一致で推挙され、十月四日付で空席となっていた農民教育協会会長に、全国農業協同組合中央会会長の岩持静雄先生が就任された。

十一月二十九日には、池田農民教育協会理事長と二期生の小口豊協中央学園を伴って初めて鯉淵学園を訪れ、全職員学生を前に、「一行学一致の教育方針はよろしい、広い土地、木々の緑空気もよい、諸君達は環境に恵まれている。この学園で立派な農業人になるための下地をつくれ」と訓示された。

学園内の視察で酪農場に立寄った際も「学生に頑張るように、期待していると伝えて下さい」と念を押すように話され、学生を思う先生の一面がうかがえた。



昭和六十年年度学生募集に特段のご協力を

学園長 吉 川 直 行

同窓会の皆様、各地でご活躍のご様子喜びにたえません。学園では学園際の大が秋空をこがして間もなく、例年のない見事な紅葉が校庭に彩り、豊作の年を祝って早くも今年が過ぎようとしております。

さて、おしつまりまして皆様何かと

ご繁多な毎日をお過ごしのことと存じますが、学園の明年度学生の募集についてご協力をいただきたく、お便り致す次第です。

皆様ご存じのとおり、学園の志望者数が昭和五十六年度から急に減少しはじめました。かねてより学生募集につ

いては皆様の一方ならぬご配慮をいただいております。学園と致しましても早速事態に対応すべく募集方法を改善して懸命の努力を重ねてまいりましたが、残念ながら五十八・五十九年度の入学者は80名を下回りました。

六十年度に向いまして、さらにできる限りの対策を講じておりますが、何分六十年度は18歳人口がヒノエウマ年の生れであるために、一昨年の五十八年度一七二万人から一五五万人に減ると推計されておりますので、入学者の確保がいよいよもって困難となることと予想されます。

そこで学園と致しまして、この度は同窓会の皆様に例年でない特段のご協力をお願い申上げるわけでありませんが、その際、特に下記のような点にご配慮いただければ幸いに存じます。

第一点は学生数の減少は生活栄養科に著しいこととあります。生活栄養科は栄養士の資格が取得できるだけでなく、生活改善の全般にわたる教育が施され、農村婦人の中で指導性を豊かにもち、村づくりの中核たりうる人材の養成がなされております。五十九年度農業改良普及資格試験においても、本科三年で他の四年制大学の卒業予定者にして一〇〇%の合格率をあげており、高い学力水準に到達していることを客観的にも立証致しておりますとともに、全寮制生活によってたくましくかつ情操豊かな女性に成長しております。

ます。今後の農村において家政のみならず農業にも深い理解と実践力をもつ女性の養成がいかに重要であるかは皆様には申上げるまでもないこととありますが、学園教育のこの面での特長を是非ご強調いただいて志望者勧誘にご協力いただけたらと存じます。

第二点は園芸コースにくらべ畜産コースの志願者の減少が著しいことで、畜産に関する専門的な実技を伴った学習を行うには、十分な実習施設・教材が用意されていなくてはならぬことは申すまでもありません。その点、学園には長年にわたって整備されてきた畜産実習農場があり、また、卒業生の中に優秀な畜産家が多数輩出していることも、皆様よくご承知のとおりであります。そうした特長が意外に知られていないように思われます。この点もご強調いただいて、畜産に志わる学生を一人でも多く勧誘願いたいと念じております。

わが国の産業構造が急速に高次化しつつある時代でありますので、農家子弟の就職動向、したがって進学動向が大きく変化しつつあるのが実勢でありましようが、そうであればあるほど、農業後継者や将来の農村地域リーダーの養成が重要になってくることは申すまでもないことで、農業あるいは農業関連諸産業の将来の重要性に眼を向けている学生が皆様のお心当りの中におりました。是非積極的にご勧誘の労

をわずらわしいと存じます。学園と致しまして募集広告・推薦依頼にできる限りの努力を致しておりますが、入学者の志願動機を聞いてみますと大部分が卒業生の方々の心からのご勧誘・ご推薦によるものであることから、皆様にこの際特段のご配慮とご協力を是非是非お願い申上げる次第であります。

なお、学生募集につきましては学園を卒業することによって得られる資格について必ず問われるわけでありますが、特に農業改良・生活改良普及員の資格については、昭和五十九年度以降試験制度が変更され受験資格が農業及び家政に関する四年制大学卒業生並びにそれに相当するものとなりましたので、学園本科三年在学中に受験することとができなくなりました。学園としては昭和六十一年度から普及専攻科（仮称）を設けて、入学後4ケ年目に受験資格を認定されるようにして普及員への道が途切れないようにしたいと考え、目下計画検討中であります。幸い、本年度の試験で三年生が4年制大学四年生として受験し、二十七名が合格致し、三年制ではあるが内容的に四年制大学における教育内容に近い教育内容をもっていることが立証されました。

この点も学習が従来各種学校に位置づけられていたために教育内容について社会的に低く評価されているくらいであったのではないかと思われますが、そうではないことを強調し、ただい

てよいと考えております。

最後に、学園の経営主体たる農民教育協会の初代会長の東畑精一先生が亡くなられてからしばらく会長欠のまま経過しましたが、この十月に全国農業協同組合中央会の岩持静麻会長に協会会長にご就任いただきました。また、学園は従来各種学校に位置づけられておりましたが、今般専修学校にすることと致し、認可の申請を開始しました。以上を申添えまして、本筆ながら皆様の一層のご健勝を祈念して、学生募集に特段のご協力を切にお願い申上げる次第です。

関正治氏(四期)

鯉淵学園の教壇へ

学園では、昨年から今年にかけて、近先生、高石先生、築島先生と停年退職者が相次ぎ、社会科学系担当教授の補充にせまられていたが、このほど、関正治氏を教授として招聘することを内定した。

関正治氏は本学園の四期生で、卒業後北陸農試に就職、昭和四十五年に東北農試に移られて今日に至っている。今年の三月には、研究成果が突っつて農学博士を取得された。

本学園への着任は新年早々で、学園教育に新風を吹き込むものと期待されている。

昭和59年度教育施設整備

- 昭和59年度の国庫補助によって、完成間近な園芸農場収納舎(上)と酪農場農機具整備格納庫(下)。



40周年記念事業基金応募状況

(559.11.30現在)

氏名	支部・期	応募金額
及川 敬士	岩手9	20,000
渡部 茂	秋田9	10,000
磯屋 喜吉	長野9	10,000
富永 治	鹿児島9	20,000
栗山 孝	千葉9	10,000
小泉 尚久	茨城9	10,000
小野寺 芳男	岩手9	10,000
堀江 聡	栃木9	20,000
佐々 邦夫	愛知9	20,000
高橋 利清	岩手9	20,000
北村 康祐	東京2	10,000
金子 純	東京3	10,000
吉野 賢	富山2	10,000
松永 武之	山口4	20,000
岩橋 弥	千葉38	10,000
荒井 春江	茨城24	10,000
小林 敏雄	新潟10	10,000
渡部 功	山形36	10,000
村上 利夫	福井11	10,000
堀江 美穂	静岡38	10,000
中田 浩	北海道13	10,000
北條 定喜	新潟2	10,000
菅野 和子	秋田35	10,000
萩原 清美	愛知24	10,000
武藤 一敏	福島25	10,000
中本 和雄	鳥取2	10,000
湯口 康章	長野22	10,000
石塚 仁	茨城33	10,000
小出 文子	千葉21	20,000
満留 藤男	宮崎15	10,000
熊谷 俊	宮城5	10,000
小口 芳昭	東京2	20,000
矢作 武雄	茨城通3	10,000
合計	33名	410,000

「二期生」 同期生会について

高農二期生として卒業以来、全員が一堂に会する機は熟さないま、三十七年が過ぎ、学園も創立四十周年を迎えます。

この六月に四組(畜産科)の級会が学園であり、次回は全員で集ろうとの決議をし、学園に近く、面倒を見てもらえそうな、との事から、一組、高橋昭二、桜井昭利・二組、江草恵、宮川英一・三組、御持義虎、森安一夫、四組、萩原耕の各氏を勝手に準備委員に選出しました。手始めに名簿の点検をし、不明者・未確認者の住所調査をそれぞれの近くの方に依頼する時の結果、十数名は判明しましたが、探してあてたその朝に亡くなられた方を加えて、物故者も十三名を数えます。又、仕事の代った方や、健康上の谷間をやっと乗り越えた等、一身上の変化も多いようです。人生の区切りをどの年代に置くか議論のある所でしょうが、我々にとつて、今も特にその節目の年代かと思えます。一期一会、一度集まって、これからの活気にしませんか。

準備委員相談の上、次のようなお知らせとお願いを致します。

一、終戦時、小田先生が急遽作られたとされる在籍者名簿によると、中退、五十七名、一期入学、二期卒業七名

と混乱した社会情勢を映しており、一・三期に習って、あの時期、櫻園に来、出逢った事に意義をおき、呼びかけの範囲を一応二十年頃の在籍者にしたいと思えます。勿論その前の退所者でも希望者は出席等、歓迎します。

二、住所不明者がまだ多く、又、未確認の方もいるかと思えます。皆さんの交友範囲で判る方には、相互、および事務局等へ知らせして下さい。

三、開催は、昭和六十年秋の同窓会大会に合わせ、場所も学園か・周辺部にしたらと思っています。

四、以上三点についての御意見、出欠予定、歩み近況等についての短文や、近影を戴けたらと思います。

五、住所不明者と未確認の方達

一組・加藤成夫(東京)、北島隆(大阪)、久米一(愛知)、西村昇(山口)、藤本重太郎(徳島)

二組・菊地啓介(大阪)、山根博(山口)、横瀬和尙(茨城)

三組・小原正明(鳥取)、並木(櫻園)正(東京)、神余義光(香川)

四組・神志那孝生(大分)、佐々木義通(鳥根)、八子賢一(北海道)、本名毅(東京)、和田忠明(静岡)

六、連絡先「鯉湖学園二期生会」か、各組の委員にお願いします。



九期生会開催

卒業後三十周年を記念する九期生会が十一月三日、来賓四名、同期生二十四名の参加を得て、笠間市稲荷神社前

の立間館において開かれた。

翌日は、稲荷神社から学園をみて解散した。尚、参加者から一律に本部会費を徴収し、持ちあわせのある人は記念募金をとの呼びかけに対し、十五万円の募金があった。

築島先生への謝恩

築島先生は去る三月三十一日付をもって、学園をご退任されました。

先生は昭和三十一年から五十九年三月まで、二十八年間の長きにわたって学園教育を支え、私達を御指導いただきました。先生のご退任を機に事務局有志話し合い、謝恩の募金を呼びかけることにいたしました。募金方法は左記の通りです。皆様の御賛同をお願いします。

(事務局有志一同)

各位殿

記

- 一、募金一口 壹千円(何口でも可)
- 二、募金期間 昭和六十年一月末日迄
- 三、送金方法 同封の振替をご利用下さい。その外は学園同窓会事務局宛に。
- 四、心ずくしの先生へのお属、有志にお集り願ひお届けする。

事務局からのお願ひ

会費納入については、会費発行の都度全員に振替用紙を同封してお願ひしております。昭和五十九・六十年年度会費未納の皆さん(大半の会員)是非式千円を納入下さい。



鯉湖学園第九期卒業生三十周年記念同窓会 S 59. 11. 3